



スポーツは生きる力、そして共に生きる!

能登地震が起き、1カ月が過ぎました。今なお、御苦労されている被災者の皆様にお見舞いを申し上げます。また、本校も PTA から石川県の特別支援学校に義援金を送っていただきましたが、少しでも現地の皆様のお役に立てれば幸いです。本部役員の皆様、ありがとうございました。

さて、1月が行き、2月に入りました。

1月末には高等部の両コース、学年に応じて違いはありますが、校外での実習がスタートしています。卒業していく3年生も含めてです。これはもう、次の年度を意識しての学習であり、卒業後の生活につながる学習です。このおたよりを発行する2月1日からは各学部の入学相談や入学選考も実施しています。どの学部の子ども達も次のステージに入っていきこととなります。感染症の良くない波が向かってきていますが、健康に留意して、心のエンジンをかけていってほしいですね。

さて、1月の最初に、とりわけ高等部の生徒や卒業生が大変お世話になっている『一般社団法人 京都府障害者スポーツ振興会』さんが創立 50 周年を越えたという、つどいを実施されました。本当は 1972<昭和 47>年設立で 52 年が経過しているそうですが、コロナ禍で実施されなかったそうです。

有に 500 回を超えた「障害者スポーツのつどい」、各地域での「つどい」、競技委員会では、陸上・卓球・水泳・シンクロナイズドスイミング(現在はアーティスティックスイミング)・卓球バレー・アーチェリー・車いす駅伝・車いすハンドボール・フライングディスク・ボウリングの10専門部を持っておられます。「卓球バレー」など、京都発祥のスポーツです。(御存じだったり、されたことはあるでしょうか。)

近年はパラリンピック種目で、日本選手がなかなか強く、東京パラリンピックでも優秀な成績で、本校 PTA の中にもサークルがある「ボッチャ」にも力を入れておられます。これなどは、もともと肢体不自由のある身体障害の方のスポーツですが、障害があろうがなかろうが、老若男女で楽しめるということで、“共生スポーツ”として、人気です。最近、「インクルーシブ」という言葉を聞かれることがあると思いますが、「包括的」とか「すべてを含む」といった意味をあらわす言葉です。その意味から障害の有無や国籍、肌の色、年齢、性別などに関係なく認め合い共生できる社会をインクルーシブ社会といいます。教育の現場ではインクルーシブ教育と言われますが、スポーツの持つ力もみんなが仲良くなるのに大きいものがあります。

私が競技会にいった折に、卒業生に出会い、「丸岡先生!」と声をかけてくれたりすることがよくありますが、生涯にわたって豊かな幸せな人生を創ることを考えたときに、スポーツを見たり、応援したり、プレーしたりして楽しめる時間があること、少しでも健康的な生活であることは大切なことだと思います。京都で、それを支える「会」が 50 年以上続いていることに心丈夫な思いにいたりしました。「スポーツは生きる力、そして共に生きる!」

(『スポーツは生きる力』という言葉は「振興会」さんからいただきました。)

「インクルーシブ」と言えば、昨年度の給食『井手やまぶき焼きそば』の取組が『京都府 食の未来宣言・実践活動コンクール』で輝かしく入賞いたしました。

井手町の小中学校の皆さんと、同じ日に井手町の名産が入った同じメニューを食べ、交流する。同じ釜の飯を食べた記憶は子どもたちに残っていくでしょう。今年度も違うメニュー『井手じゃんめん』で交流します。



「井手じゃんめん」

■ユニバーサル公演事業■

1月29日(月)、30日(火)「文化庁主催事業『令和5年度文化芸術による子ども育成推進事業及び令和4年度補正予算 学校における地域活性化のための文化芸術子供鑑賞・体験事業』ユニバーサル公演事業」が行われました。長崎県雲仙市から和太鼓集団「瑞宝太鼓」さんに来ていただきました。「瑞宝太鼓」さんは障害者の余暇サークルとして始まりましたが、「プロになりたい」という希望の声をきっかけに2001年にプロとしてスタートされました。29日と30日に太鼓ワークショップが行われ、各学部の最高学年が音楽室で課題曲の練習を行ってもらいました。見本で和太鼓を打っていただいて身体に響き渡る音に圧倒されましたが、練習を重ねるうちにリズムに合わせて打ち込み、みんなとても清々しい表情で太鼓に魅了されていました。

30日(火)の公演では、間近な距離で生の和太鼓の響きを鑑賞しました。和太鼓を懸命に打込む姿や、太鼓を楽しんでおられる姿は、観ているこちらにダイレクトに響き伝わってきました。また、学校代表として高等部3年生がワークショップでの練習の成果を「瑞宝太鼓」さんと共演披露し、自分らしく輝く姿を発表してくれました。



■学校運営協議会(コミュニティスクール)の取組■

学校運営協議会(コミュニティ・スクール)とは、子どもたちのために、学校だけでなく学校も含めた地域社会をより良くしていこうと考えて(熟議)、実現させていく協議会のことです。今年度は「スポーツ文化を楽しむ部会」と「キャリア教育部会」の2つの部会を設けて運営しました。

●スポーツ・文化を楽しむ日部会の取組●

スポーツ・文化を楽しむ日部会では、年に4回スポーツ・文化を楽しむ日を実施しました。今年は地域の方に講師にきていただき、様々なスポーツや文化に触れることができました。参加した子どもたちは普段あまりやらない内容に興味をもって楽しく取り組んでいました。

●キャリア教育部会の取組●

キャリア教育部会では、子ども達に「仕事」や「働く」について知ってもらう機会として、やまぶき祭の時にしごとクイズを実施しました。また、保護者の方にも福祉事業所で働いている利用者の方を見て、卒業後の働くイメージをもってもらうために、地域の福祉事業所の物品販売も行いました。しごとクイズでは、学校運営協議会委員の方々から協力いただき、仕事をしている様子の写真や動画を使用してクイズを作成しました。参加した子どもたちは盛り上がり、クイズに答えていました。

本校のコミュニティ・スクール

